

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域密着型サービスの意義をスタッフ全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化を願った理念をつくりあげて、玄関先に掲げている。	開設2年目で、地域の中でまだまだ密接な関係にはなっていないが、少しずつ交流が広がってきている。これからもこちらから積極的に関わりを持っていく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティング、記録、申し送り。関わりの場面時に理念に沿ったケアを心がけているのかを振り返り確認し合っている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご家族には毎月ホーム便りを発行し、事業所の実態や役割などを伝えている。地域住民に対しては地域のイベントに参加の折に事業所の説明や実態を伝えている。	こちらから地域に出掛けて行く事。その中で私達に関心を持っていただくこと。自分達が地域の中で役割を持って生活できるようになることを考える。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会の清掃・花壇作りなどに入居者さんとスタッフが参加し、顔見知りの関係は出来ており挨拶は交わしたりするが、まだ気軽に立ち寄ってもらえるような関係にはなっていない。	今年、夏祭りを開催して親しくなったご近所の方も来ていただいたが、まだまだこれからの課題である。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭り、行事には入居者さんと積極的に参加している。近くの小学校の運動会、文化祭には積極的に参加している。近くの小学校の子供パトロール隊の会員となっている。地域の中学生・大学生のボランティアさんとして活動に来てくれる。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	養成学校の実習生の受け入れをしている。スタッフの中にオレンジリングを腕に付けて、役に立てることがないかと心がけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全スタッフで行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はミーティングで改善に向けての具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。		
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け双方向的な会議になっている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当窓口にてサービスの取り組みのことで相談を試みたが、次々と他の担当に回され期待した結果は得られなかった。		市の担当者が1年で交代になるので、親しく話せて相談がしやすい関係がなかなかつくれない。こちらからの関わりを多く持つていく。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	全員ではないが管理者・スタッフは「成年後見制度」「地域福祉権利擁護事業」の研修を受けており、必要な人にはそれを活用した支援をしたいと思っている。今まではなかった。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修などで虐待について学ぶ機会を持っていえる。職場間での勉強会、ミーティングの機会に「何が虐待であるか」をそれぞれ理解し、防止の徹底に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には事業所のケアに関する考え、取り組み、事業所の対応可能な範囲について説明している。利用者の状態変化により契約解除になる場合は本人を交えて家族と対応方針を相談している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者さんの希望、意見など日常の会話の中から察知し、望んでいること、本人が出来そうなことを叶えていくようにしている。調理など積極的に参加していただき、包丁も使ってもらっている。本人のやりたいこと、出来そうなことを見極めている。		一人で散歩に出たいという入居者さんがおり、その方の能力なども検討し、家族の了解もあり実行してみた(GPS機能付きの携帯を持ってもらう)。とても生き生きされている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月通信を発行し、個人の近況も書いて送っている。行事などの時の写真はA4用紙に印刷して送っている。その他、個人のアルバム帳を作成し、ご家族の面会時に見てもらっている。金銭は月末締めで報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には手紙や訪問時に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに気をかけている。出された意見・要望はミーティングで話し合い、反映させる。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングなどで意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションに心がけ、問かけたり聞き出したりするようにしている。時には個別面談を行っている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居さんの自由な暮らしを出来る限り支えられるように、入居者さんの状況やペースに合わせたローテーションを組んでいる。		管理者は状況に応じた対応ができる様に通常のシフトに入らず、夜間の対応や入居者さんの状態の変化に応じた柔軟な体制がとれるようにしたい(夜間の入浴も考えていきたい)。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	開設一年半以上経て離職者がゼロということで、当ホームはどこよりも職員の定着率が良いと思っている。職員が固定化し、馴染みがケアすることが入居者さん・ご家族に安心を与えると考えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修はなるべく多くの職員が受講できる様にしている。またそれらの研修報告は毎月のミーティングに発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できる様にしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	北区連絡協議会などの研修会にはなるべく多くの職員が行ける様にしている。知り合いの病院で月一度の勉強会があり、同業者が集まり、意見交換をしている。職員もなるべく多く参加するようにしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握したりするように努めている。		職員と入居者が離れて一息入れる時間を持ってもらうようにしている。ゆっくり出来る居心地の良い場所を提供できていない。
22	向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員のやりがいなど向上心をもてる職場環境・条件について具体的に配慮・工夫をしている。職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人の置かれている状況を理解し、苦しんでいること困っていることを把握し、本人・ご家族の思いを受け止め安心していただいている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	これまでの家族の苦労や思いや今までのサービスの利用状況などの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで落ち着いてもらい、次の段階の相談につなげている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	困っていること、不安なことに対して出来ることは直ぐに実行し、出来ないと思うことでも安易に逃げずに方策を考えている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	グループホームに入所の際は納得して入所される方はごくわずか、ご家族の状況や今まで入っていた病院・施設などの意向で急がる場合が多いと思われます。そのため入居者さんの心理的負担が大きいと思うので、安心感を一日も早く持ってもらえるような関係作りに取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者さんは人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から入居者さんに教えてもらう場面が多い。また、そういう場面を多く持つようにセッティングや工夫や声がけに配慮している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者さんの様子や日々の暮らしの出来事や気付きの情報など、きめ細かく家族に伝え本人を支える協力関係を築こうと努力しているが、家族が職員に介護を委ねつきりになっているところがみられる。		ご家族はよくない情報は聞きたくないと思われる。それは苦情ではなく、一緒に支えていく関係作りになることで大切なことだと理解してもらえるようにする。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族の本人への思い、本人のご家族への思いを受け止めて、両者の思いが結びつくような働きかけを心掛けている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の協力のもと、お寺参りや以前から通っていた美容室に通われている。ご近所の友人、昔の同僚、親戚などの手紙・電話・訪問などがある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性については情報を連携し全職員が共有できるようにしている。また心身の状態や気分・感情で日々時々変化することがあるので注意深く見守っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	体調悪化などで他の事業所に移られた後も利用者さんと共に会いに行ったり、職員同士で会いに行き良い関係を保っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人にとっては昔のように家族と暮らし、若い時のように一生懸命畑を耕したり、仕事を持って働くことを望まれている。現実には自分がまだそれほど年老いているという実感を持たずに40代、50代と思われている方が多い。意向は把握しても不可能。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身の語りや家族・知人等の訪問時など少しづつ把握するように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。生活・心理面の視点や出来ないことより出来ることに注目し、その人全体を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。職員全員で意見交換・モニタリング・カンファレンスを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の遂行状況・効果などを評価し、職員が記録する。利用者の状況変化や状況、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	職員の気づきや利用者の状況変化は個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有に徹底している。また、個別記録を基に介護計画を見直し評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人・ご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		いずれ環境が整った時はグループホームとしてショートステイ・デイなどもやってみたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人と地域との様々な接点を見出し、周辺施設への働き掛けやボランティアを呼びかけている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望でデイサービスを利用してもらっている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加することになり、情報交換や解決できない問題など相談しやすくなった。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医となっている。受診や通院はご家族と協力して、通院介助を行ったり訪問診療に来てもらうケースもある。複数の医療機関と関係を蜜に結んでいる。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	開設当初より知り合いの認知症専門医療機関と連携があり、相談したり助言を頂いたりしている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	連携している医療機関より週一度訪問看護を受けていて、気軽に相談したり助言をいただいたりしている。その他週一度パートの看護師にも来てもらっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また家族とも情報交換をしながら回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	構造的な問題で重度化した人が安全に安心して生活できる環境ではなく、退所していただかなくてはならなくなった入居者がいて残念であった。		重度化したり終末期を迎えられた入居者さんにも対応できる環境づくりを考えて行くことがこれからの課題だと思っている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	対応してくれる医療機関との連携もあり、今後の変化に備えてご家族とも話し合いを持っていく。		本人の気持ちを大切にして家族との話し合い、入居者が安心して終末期を過ごしていけるように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>新しい環境に入れられもこれまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境・支援の内容・注意が必要な点について情報交換し、職員が機会を作って訪問してロケーションダメージを最小限食い止めるように努めている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ミーティングの折に職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方で、入居者さんの誇りやプライバシーを損なわれないように徹底している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員は入居者さんと過ごす時間を通して入居者さんの希望・関心・嗜好を見極め、それを基に日常生活の中でご本人が選びやすい場面をつくっている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な一日の流れはもっているが、時間を区切った過ごし方はしていない。買物や散歩等一人ひとりの状況や思いに配慮しながら柔軟に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>個々の生活習慣に合わせて支援をし、行事や外出時に化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように取り組んでいる。ご本人の馴染みの理美容院で希望にあわせてパーマや毛染をしてもらっている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。</p>	<p>調理・盛付け・片付け等入居者さんと共に行い、職員と入居者さんが同じテーブルを囲んで楽しく食事できる雰囲気づくりを大切にしている。旬の食材を取り入れ食事を楽しんでいただけるような工夫をし、時には外食や個々のお好きなものを選んでいただいでの出前など変化も取り入れている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>以前はタバコを吸われる入居者が居て、タバコは職員が預かり本人の希望にそって他の入居者さんの迷惑にならない場所で吸っていただいていた。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表を使用し、尿意の無い入居者さんにも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できる様に支援している。日中は下着に尿取りパットのみで、夜間はオムツを使用。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>入浴を拒む入居者さんに対して言葉掛けや対応の工夫、チームプレイ等によって一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。入浴したい日などは本人の意思の確認をもとに決めているが、時間の希望などは今まで確認していない。</p>		<p>就寝前に入浴すると安眠できるという入居者さんもいると思うのでご本人の気持ちや習慣を考慮して職員のローテーションを考えて行く。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また一人ひとりの体調や表情・希望等を考慮してゆっくりと休息が取れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>家族の協力を得て、小額のお金を持っている人も居る。家族よりお金を預かり管理している人でもご自分の買物時はお金を自分で払っていただけようにお金を渡ししている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気・本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい心身の活性につながるので日常的に散歩・買物・ドライブ・外食などに掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとりの思いや願いが叶えられるように入居者さん・ご家族と相談し協力を得ながら実現に向けた取り組みをしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族・友人・知人からの手紙や電話を歓迎している。手紙には返事を出すように促しているが、なかなかスムーズにいかない。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時間など定めておらず、ご家族の都合の良い時間帯にいつでも訪ねて来ていただけるような配慮をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会などで職員の共有認識を図っている。ミーティングや日々の申し送り時、その日のケアを振り返り自覚しない身体拘束が行われていないかを点検している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者さんが外出しそうな様子を察知したら止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり一緒について行く等の安全面を配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は入居者さんと同じ空間で記録等の事務作業を行いながらさりげなく全員の状況を把握するように努めている。夜間は数時間ごとに様子を確認するとともに起きられたときは直ぐに対応している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況をみながら厳重に保管すべきもの(薬等)保管管理が必要なもの(洗剤、刃物等)、利用者が使う時に注意の必要なもの(裁縫道具、ポット)に分けて管理している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には速やかに事故報告書を作成し、事故原因を今後の予防対策に役立て、検討する。家族への説明と報告を行っている。		
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応できる様にしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	様々な役割活動や自由な外出によりリスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感の無い暮らしが利用者の表情を明るくし、落ち着いた生活を行えている。そのような満足されている表情をご家族の方にも見ていただいて説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を把握し、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた時はバイタルチェックを行い変化時の記録をつけている。状況により医療受診につなげる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋をケース毎に整理し、職員が内容を把握できる様にしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬できているか確認している。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。散歩・家事活動等の身体を動かす機会を適度に設けて自然排泄できるように取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後に歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行ったりしている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に関して情報収集を行い取り決めを作り、早期発見早期対応に努めている。また利用者および家族に同意していただき職員と共にインフルエンザ予防接種を受けている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>まな板やふきん等は毎晩漂白し清潔を心がけている。冷蔵庫も点検・掃除し食材の残りは鮮度や状況を確認し、冷凍したり処分したりしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>明るい雰囲気のある玄関になるように花を生けたり手作りの飾り物等を置いて季節感を出している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>食器を洗う音、調理中の匂い、心地よい音楽やテレビの音、リビングから見える庭の花や鳥、季節感のなる食卓など五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>限られた共有スペースの中で一人になれる場所が作られていない。</p>		<p>ハード面で手狭であり、もう少し工夫出来るところが無いか思案している。入居者が一人になり庭を眺めたり出来るスペースが欲しい。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>タンス・イス・ベットなど入居者の馴染みの物を持って来ていただいている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>リビング・居室など換気に心がけている。利用者の発汗の様子や冷え等に注意し湿度調節している。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者さんの状態にあわせて手すりや浴室・トイレ・廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>本人にとって「何がわかりにくいのか」を職員一同で検討し、本人の不安材料を取り除き力を取り戻せるように試みている。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭に花を植えたり、畑のスペースを確保し入居者さんが日常的に活動できる環境を作っている。車椅子の方も外の空気や景色を楽しむように庭にテーブルやイスを置いて活用している。</p>		

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の数 $\frac{2}{3}$ くらいが <input type="radio"/> 職員の $\frac{1}{3}$ くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者数 $\frac{2}{3}$ くらいが <input type="radio"/> 利用者の $\frac{1}{3}$ くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等数 $\frac{2}{3}$ くらいが <input type="radio"/> 家族等の $\frac{1}{3}$ くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
<p>【特に力を入れている点・アピールしたい点】</p> <p>(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)</p> <p>家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの尊厳を大切に、その人らしくご自分のペースで穏やかに過ごしていただいている。入居者さん・職員が共に支え合って安心して生活できる終の棲家でありたい。</p>		